

平成3年度(1991)
個展を前提とした作品制作研究(8)
第8回個展・茶絵羅 in Naha

金城 満

1. 展覧会名:

金城満個展 -管理社会「粹々するときしないとき」-

2. 趣旨:

過剰情報化の情報不足・個性化の画一化 サケビの中のワライ・粹の中の粹
無力感の抵抗・諦めのシタタカサ ドミノのブレーキ・ブレーキのドミノ
(案内より)

3. 材料技法

発泡スチロールに綿布、石膏(ボロニャ)地、テンペラ、油彩、箔

4. 展覧会場

アートギャラリー茶絵羅

5. 展覧会期

1991年03月04日(火)～04月23日(火) ※13日間

6. 開館時間

10:30～19:00

7. 観覧料金

無料

8. 企画

アートギャラリー茶絵羅

9. 作品リスト

No.	作品名	サイズ(cm)	材 料	制作年月	備 考
120	関係代名詞	86.0 x 74.0 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展
121	バルブケーション	86.0 x 74.0 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展
122	コミュニケーション1	58.0 x 86.5 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展
123	コミュニケーション2	58.0 x 86.5 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展
124	コミュニケーション3	58.0 x 86.5 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展
125	10Moons	88.0 x 116.0 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展
126	Summer's high	106.0 x 86.0 cm	発泡スチロールに綿布、石膏(ポロニャ)地、テンペラ、油彩、箔	1991年	第8回個展

10. 関連イベント

11. 考察(報道等資料) (pp. 11-16)

(1) 沖縄タイムス 1991. 03. 16 展評/金城満展を見て

リズムカルな躍動感

(詩人/矢口哲男)

(2) 琉球新報 1991. 04. 08 個定の様式に風穴/金城満展

(画家/真喜志勉)

(3) The Gallery Voice-No. 10

対談 幸地学氏(彫刻家・画家) VS 金城満氏(画家)

-世界の美術界はガス状態!!



「関係代名詞」85.0×71.5 cm

テンペラ・油彩・箔

過剰情報化の情報不足・個性化の画一化

サケビの中のワライ・粹の中の粹

無力感の抵抗・諦めのシタタカサ

ドミノのブレイキ・ブレイキのドミノ

社会の中の絵画・絵画の中の社会

牧志局
料金別納
郵便

郵便はがき

Four rectangular boxes for postage stamp placement, with a small square box to the right.

ART GALLERY Ca.et.la 第104回企画

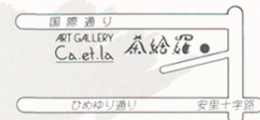
金城 満展

—管理社会・「粹々するときしないとき」—

1991年3月4日(日)～3月23日(土) AM10:30～PM7:00

(出品リストから) 空論
義務教育
口裂け女と口先女
バルブレーション
Summer's high 他

〒902 那覇市安里2-4-17
ライオンズマンション1F
Phone (098) 863-4257
F a x (098) 862-1435





バルブケーション
86.0×74.0cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔



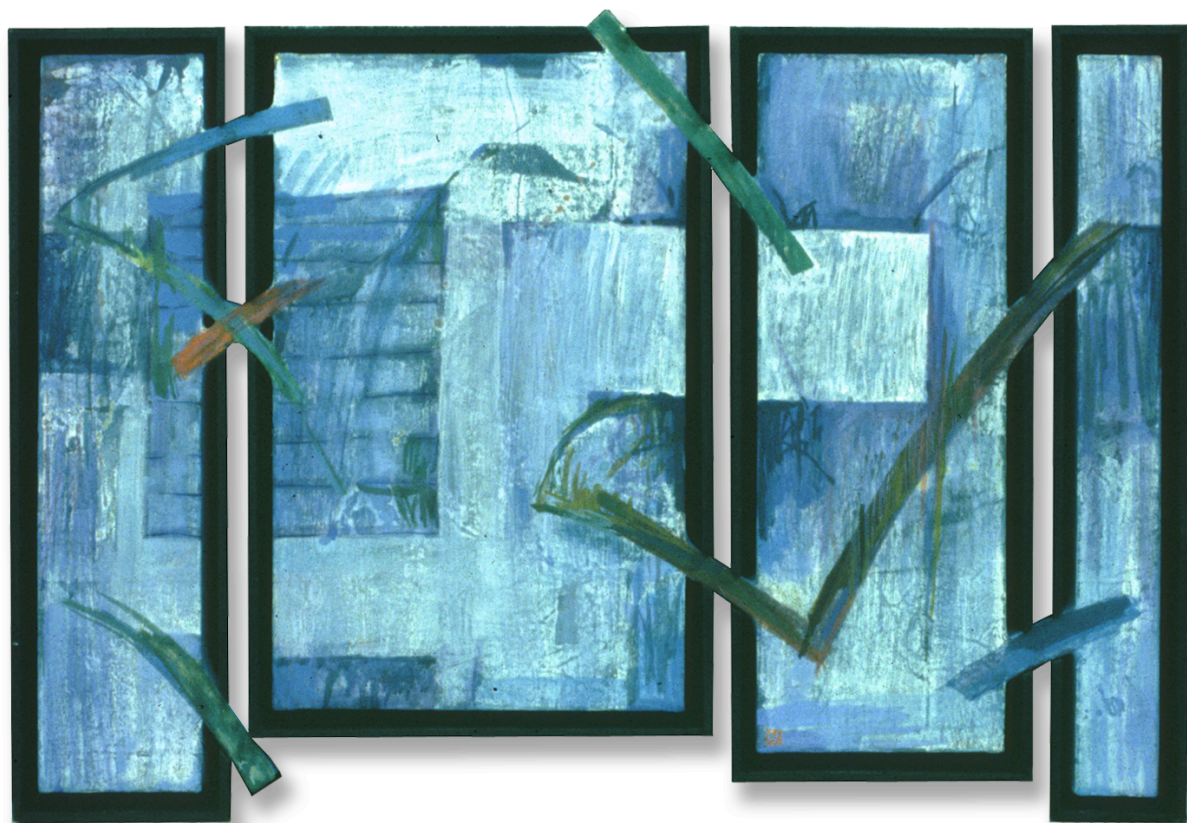
関係代名詞
86.0×74.0cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔



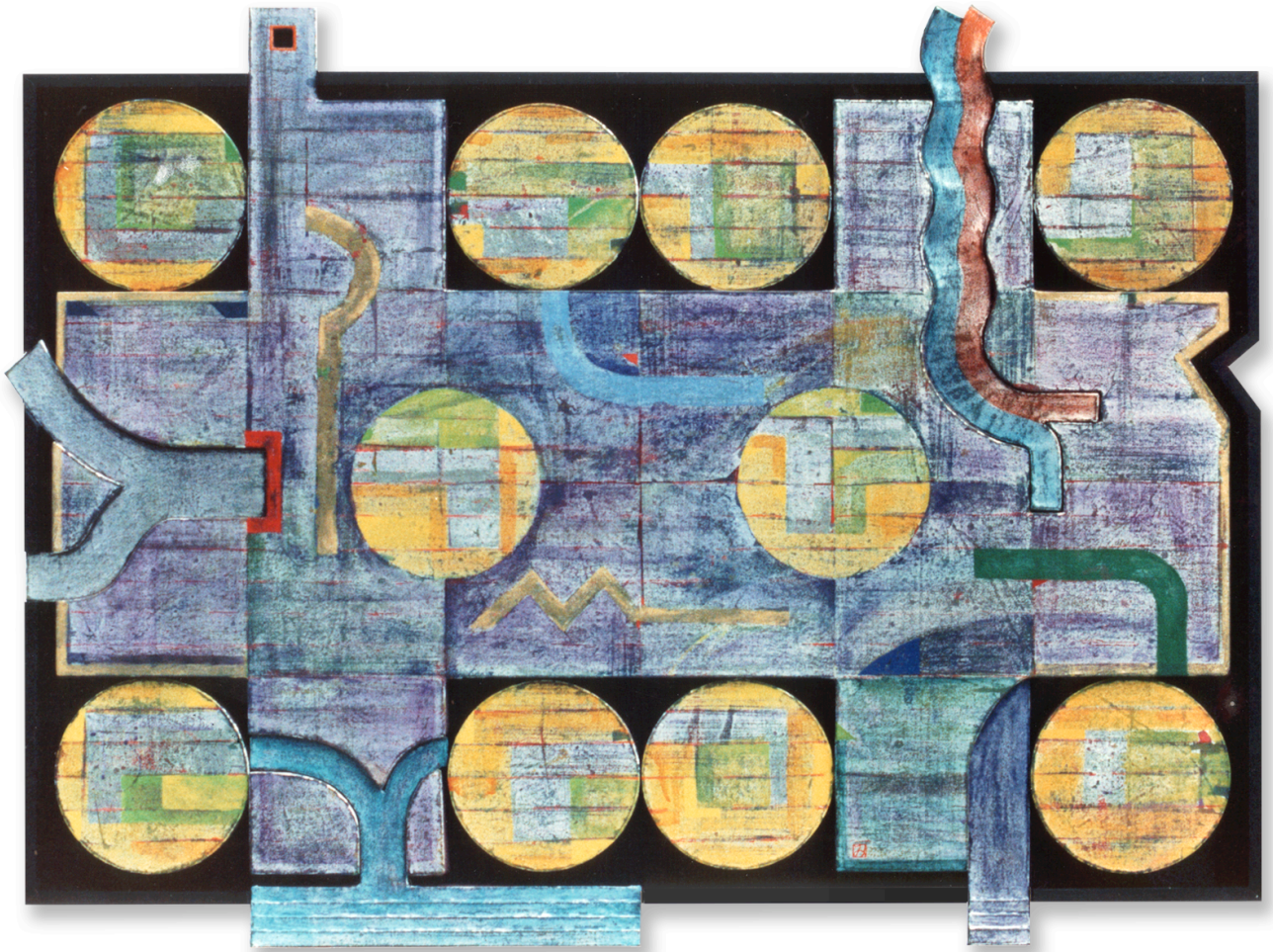
コミュニケーション1
58.0×86.5cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔



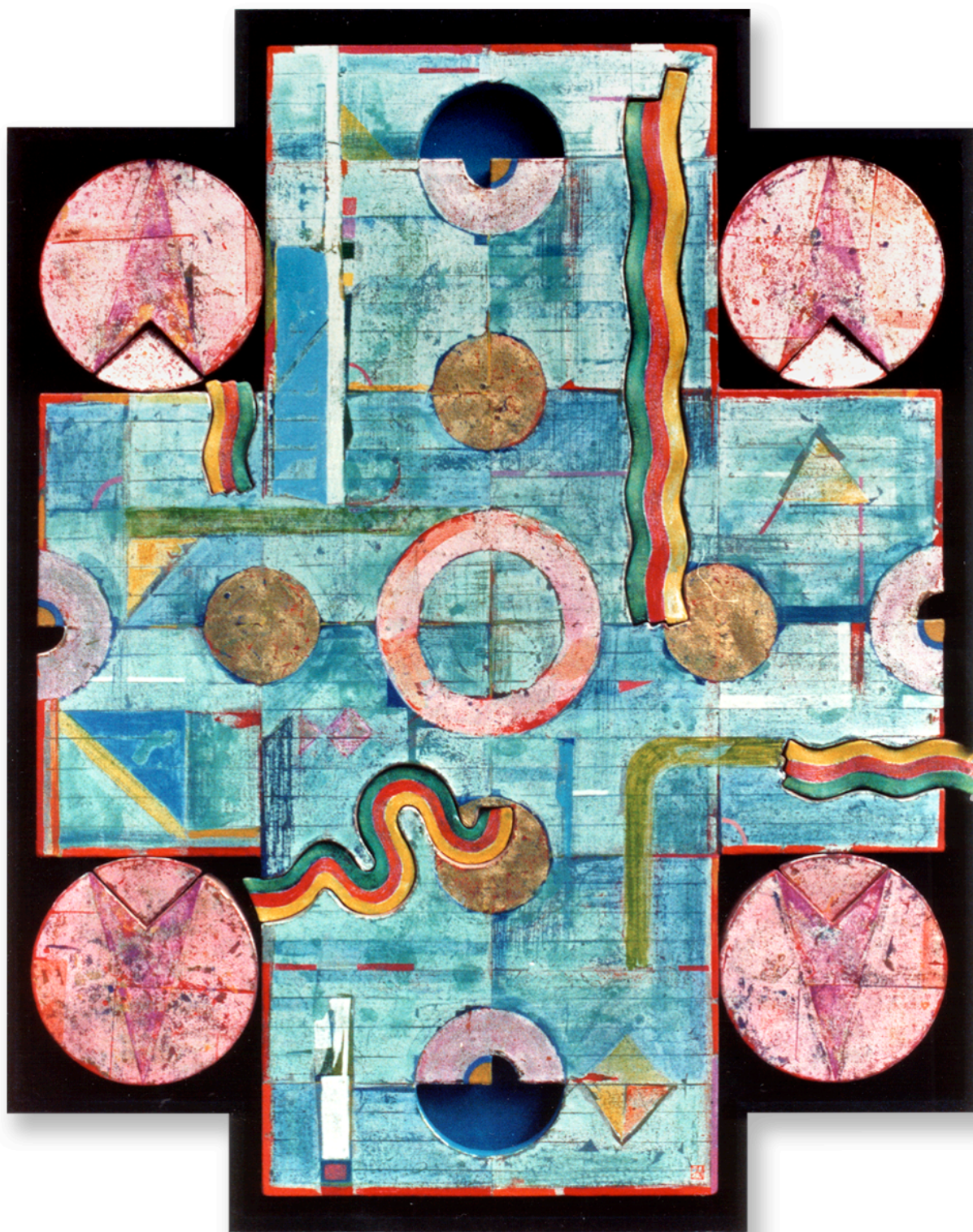
コミュニケーション2
58.0×86.5cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔



コミュニケーション3
58.0×86.5cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔



10MOONS
688.0×116.0cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔



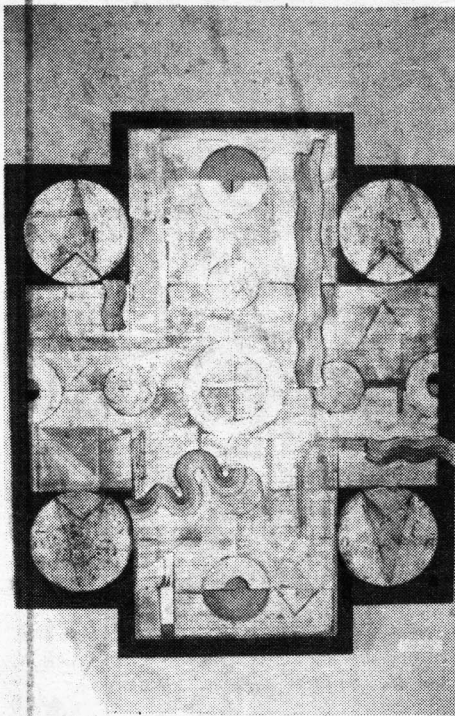
SUMMER'S HIGH
106.0×86.0cm 1991年
発泡スチロールに綿布、石膏地、
テンペラ、油彩、箔

文

展 評

金城満 個展を見て

矢口 哲男



金城満作品

図画工作という授業が、身体への何処かが憶えてい
 いまでも小学校にあるのだ、時に嫉妬にも似た感覚
 るるか。粘土をこねくり回して、時に嫉妬にも似た感覚
 したり、彫刻刀を振り回して、時に嫉妬にも似た感覚
 たり、絵の具を水にといた、時に嫉妬にも似た感覚
 りすること、そのこと自体、時に嫉妬にも似た感覚
 の喜びと楽しさを私たちの、時に嫉妬にも似た感覚



ローに引用? されている
 斜面に、目が二(すべ)っ
 たり引っかけたりしたが
 だろう、満足な歯並びの
 ら訳もなく共感していたの
 のは見当たらぬ。年齢も
 まちまちであるに違いな
 く、それが一様に、ア
 ッと口を開け発声してい
 る姿はひたすらユーモラス
 だ。『画一化』『口裂け女
 』の印象につながるものであ
 ったけれど、当然のことな
 がら明らかに変わって来て
 もいるようであった。『義
 もそれぞれタイトルに異議

ら強く意識されることはな
 いとしても、ふと立ち止ま
 ると瞬間的なゆらぎ(ゆり
 戻し)があつて、傾斜が意
 識される。那覇は歩きにく
 い、と思う。確かに歩みに
 くいのだが、それが逆に視
 線と身体に細い変化をつけ
 てくれるから、うまくリス
 ムに乗れば楽しいのだ。金
 城満さんの個展を見ながら
 感じていたことの中にも、
 そんな歩行の記憶が重な
 ってきたのだらう。タフ
 たもの、奥歯の抜けたもの。
 は作者自身がそれほど楽し

リズムミカルな躍動感

申し立てをしているようで
 開いた歯型が数十個、黒く
 塗られて並べてある。一見
 してグロテスクなものだ。
 タイトルに引きずられて見
 るとつまらないが、そうで
 はなく、歯型のひとつひとつ
 つは美に多様な個性にあふ
 れていて、ひとつとして同
 じものはない。前歯の欠け
 いら立ちのような、あるい
 は作者自身がそれほど楽し

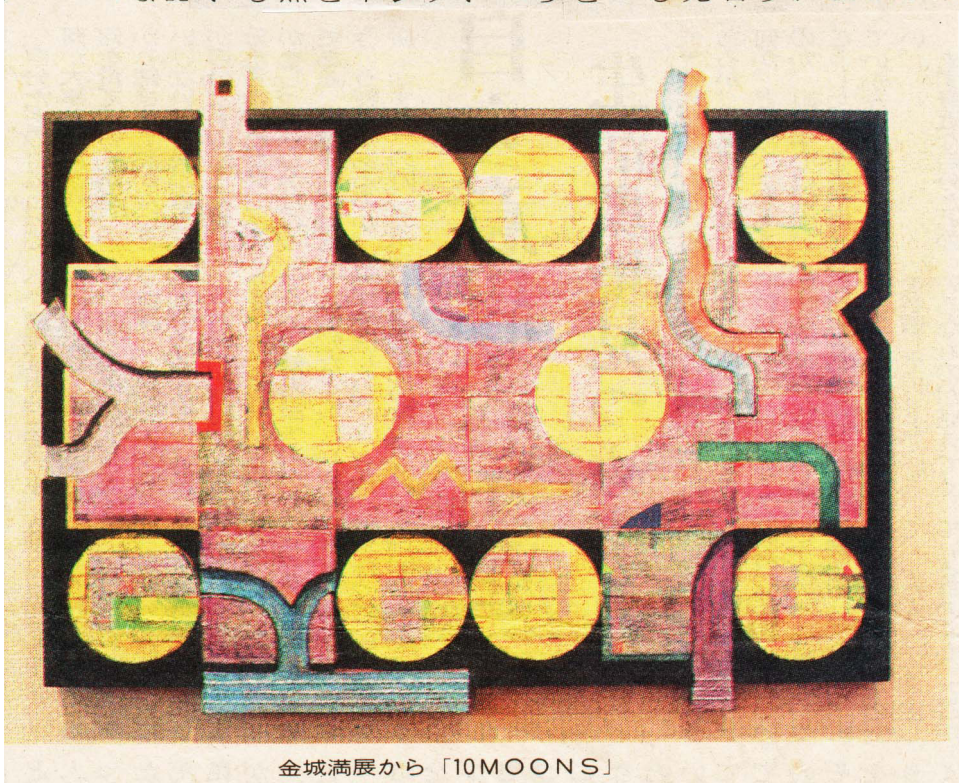
んでいないような気配も感
 じていたのだ。作品化され
 る以前の、切ったり貼った
 り削ったりしている時間、
 そのとりとめもなく自由で
 奔放な夢の身体性を、その
 まま取り出して見せてくれ
 ているという風ではないの
 だ。勿論私には作品の良し
 悪しなど分らないけれど
 も。(つづく) ということ
 の無償性や自由さが、強い
 メッセージによって少し引
 こんで、その分批評性や
 影のようなものが差し込ん
 で来ているように感じられ
 た。(詩人)

◆金城満展「管理社
 会々々するときしない
 とき」は、二十三日ま
 で那覇市安里のアート
 ギャラリー茶絵羅で。

個定の様式に風穴

金城満展

ギャラリー茶絵羅で金城満の「管理社会」枠々するとき shouldn't ーというワクワクするような個展があった。D・I・Yの画家と言ふべきか、または「義務教育」の中の「図画工作」という科目そのもののような仕事ぶりで、「関係代名詞」とか「口裂け女と口先女」というタイトルも楽しめるシカケとなっている。「絵画」をひとつの装置とみなしパーツを自由に取り外したりできるようになって、固定した美意識なしの様式に風穴を開け、テンペラ、油彩、箔、オブジェ、木枠にはヒエラルキーがなく、等価の「もの」としてある。創造とは、空無の外への回路を遠まわりしてよぎってゆく曖昧(あいまい)さとコメントの確認のような気がしてならない。さめているようで熱い、チルダッているようでチバツている金城満である。



金城満展から「10MOONS」

VOICE'S TALK

世界の美術界はガス状態!!

A TALK ABOUT ART

幸地 学
(彫刻家・画家・37歳・パリ駐)
金城 満
(画家・32歳)

沖縄の作家がメジャーな国際画壇へ出るということ。それが現実の美術状況からどのぐらい見えるのか、パリ在住10年の幸地学氏と沖縄で活躍する金城満氏に語ってもらった。

GV=ギャラリース

作家の環境

GV まず幸地さんから、ヨーロッパで作家活動をするようになったきっかけを話して頂けますか。

幸地 僕がまずパリに渡った大きな理由が、どうしても西洋美術、近代美術をやる上でその発祥地に行つて伝統の上に自分の身をおいて獲得出来る何かがあると思つたんです。

もうひとつは、これは向こうに行つて感じたんですけど異質の文化が交差していて、視覚文化においても物事の思考の基準判断が多様多様、多角的であることに魅力を感じました。

金城 確かにその場に行くというのは、いろんな意味で強いものがあると思います。

幸地 実際、行かなかつた状態、経験しなかつた状態で話すのもおかしいんですが。

僕は日本にいと自分が自由にやるというのが、束縛されている感じがしたのには確かなんです。とにかく近代美術の大

海原にまず自分を置いてみようかね。

だから今、日本にいたらと考えた場合にね、異質の文化とか、あるいは近代美術の流れなんかは、観念として解つていても実感として物を見て判断は出来なかつたような気はしますね。

実際、僕が近代美術の勉強をしたのは、理論より現実の作品を観てということですからね。

金城 ただ美術はパリの方がいいという議論に持つて行つちゃうと表現というの

のによつて触発されるんだけど、その触発される可能性のなかに時代、メディアが入ってくるということなんです

そういう考えで、ここ沖縄でつづつてやってみようという感じがします。

衛星放送は同じ時間にニューヨークのニュースが見れるんです。間接的に身を置くのというのは確かにイリュージョンですけどイリュージョンを信じているのではなくて、ただそれに触発される人間の存在の厚みを信じているんです。



幸地 学(左)と金城 満(右)

はうすつぱらなものだし、表現というのは成り立たないと思うんです。

じゃあ、沖縄というこの地で何をやるかということになります。僕はこの時代を見たい、社会というものを見たい。時代や歴史に厚みがあるように、人間の存在の厚みを信じたいんですね。

内的な可能性、それは確かに外的なも

DNAの存在を、35億年の厚みをね。表現の可能性はすでにインプットされているんです。ただダイヤルがわからない。

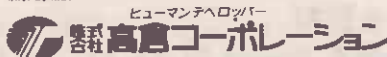
僕が時代を信じているというのは、みんなダイヤルを合わそうとしているんだけど、一昔前はダイヤルは平面上で移動しないとなかなか合わなかつた。

現代は衛星放送に象徴されるように縦



パームヒルズゴルフリゾート

ヒューマンテクノロジー



代表取締役会長 高倉 文子
代表取締役社長 高倉 幸一

〒900 沖縄県那覇市久茂地3-29-56 Tel0988-61-7621

おかげで、これから



琉球石油株式会社

沖縄県那覇市松山2丁目27番1号 ☎(0988)88-2131

の座標が地理的条件や時間的条件を超えちゃったんです。

ですからどこにいても、ダイヤルを合わそうとする行為が可能で、それが美術行為だと思ふんですよ。

幸地 確かに沖縄に居を構えて、そこを拠点にして流れを変えて行くことができないかということがあります。

今の時代はインターナショナルになれどなるほど個人の資質、存在感が目まされてくると思います。

ということは沖縄にいても世界的な美術行為が可能だということも前提にしても当然いいんじゃないかということなんですね。

自己正当化だけで何も要らないという正当性は、実際必要ないですからね。

とにかく、どんな方法をとっても表現への厳しさというのは押しかかってくるでしょうね。どんな方法で可能性を求めてもそれは避けられないんじゃないんでしょうか？それだけの覚悟をもってやる人が、おそらく美術の流れを変えていくでしょうね。それはおそらく少人数に限られると思うんですが…。その少人数の力、存在感がポジティブな面で大きく沖縄大衆の新しい文化を創り、浸透していくんじゃないかという気がします。

現代美術を担えるのは、結局ひとりひとりの芽生えというか本当に主体的に、いろんなしがらみを乗り越えて、本当に自由人として、内から湧き出るパワーというものを出せる人たちなんだと思います。

美術家で生きる

金城 幸地さんのバリでの厳しい作家活動について、いろいろ聞いて思うんですけど、当時向こうの方へ渡ったのは、「生活」よりも「生きる」ということを選んだということだと思います。

この年齢にもなると生活を考えないといけない。二者選択を迫られたら、九割九分「生活」を選びますよね。

へたすると、のたうち回るし。近代美術を実感したい、ヨーロッパという厚みを実感したいというだけで本当に「生きる」を選べるのか。

そこらへんを、幸地さんにぶちまけて

話してほしい。本当は美術じゃなかったという気がするんですよ。

本当に厚い実感が人間に生活より「生きる」を選ばせるのか。何か他に動かされているものが、あるような気がします。説明づけられないことなのかも知れませんが。

幸地 確かに生活面については悩みますよね。

日本に帰って教員免許をとるという方法もあった。しかし、僕はそういうことを一切、排除しながらやってきたんです。

金城 だから美術にそういう力があるのかということ、僕は聞きたいんです。

幸地 かなり本質的なことをおっしゃっていると思いますが、おそらく美術じゃなくても他の職業、たとえば車のセールスでも徹底してのめり込んでいたと思います。そういうことと言えば、人間が職業を生きる使命感として、つまり社会の大きな役割として自分の可能性を生涯、実感していくことは、大事なことなんだと思います。

金城 生きる意味ですね。
幸地 そう。その生きる意味を呼吸し、一時的なものではなく、かなり大きな深さで得たいというのは、僕自身のなかにあっただけでしょうね。

それが、たまたま僕の場合、美術であっただけでしょうか。

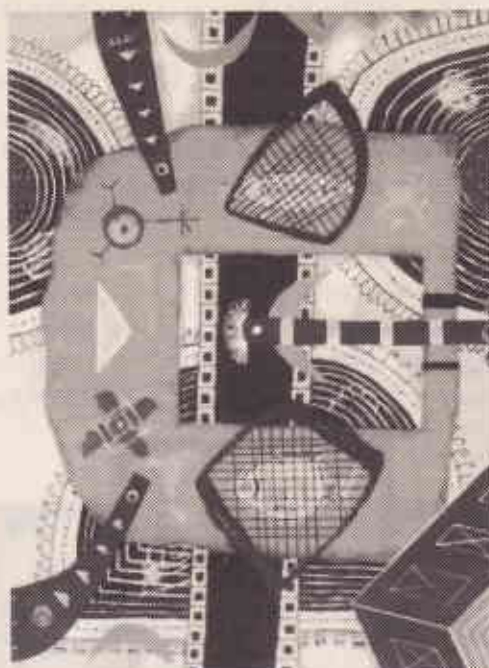
金城 僕が聞きたいのは美術が果たしてそれだけの力があるのか、二次的なものではないかというのは、人間のなかのエネルギーという部分の存在なんですかね。

エネルギーがその人のなかで、どんどん湧き起こってきて美術というのに出くわしたときに、それを美術化していくと思う。

幸地さんを見て、まず存在のエネルギーを感じる。

幸地さんには美術が全面に出てるんだ

幸地さんには美術が全面に出てるんだ



幸地 作品「RECIF CORALLIEN」56×76cm
リトグラフ、ED160

けど、本当に美術なのかなー、そんなに美術を信じているのかなーと正直、思うんですよ。

幸地 確かに人間の存在の可能性という言葉は、今だからこそ言えると思う。しかし、当時は本当に模索状態だったから。

金城 たとえばですよ。ペニスの先に針を突き付けられて美術を選ぶかという時に、やっぱり今の僕は選ばないと思うんですよ。

人間の存在を産むときに美術じゃなくて、ペニスを選ぶと思う。幸地さんは美術、美術と言うけれども、ぶちまけてほしい。

本当にそれだけ美術を信じているのかということ…。

幸地 やっぱり信じていますね。今は確信があります。

以前までは、ぼやけていたと思うんですが。とにかく人間の可能性、生きる存在感というのを美術に託そうという希望でやってきたわけです。

金城さんが言うように美術が信じられるのか、それに生きる価値があるのかということ考えた場合、今はっきり「イエス」と言えますね。

確かに今は僕自身、生活と美術が一体



Kentucky Fried Chicken.

株式会社 リウエン商事
代表取締役社長 宮城 義明

〒901-21 沖縄県浦添市字総理宮556番地 TEL (0988)75-2168

国家試験合格者輩出-No1の総合コンピュータ専門学校

専修学校 CSCコンピューター学院

那覇校 900 沖縄県那覇市山下町103-1 電話(0988)59-0746
中部校 904 沖縄県沖縄市宇室111-1-10 電話(09893)8-1631

化しつつある状態ですけど。しかし、はっきり言って向こうでは何度も押し潰されそうになることばかりでした。

1987年の夏などは、その圧力をもの凄く感じて頂点に達しました。心理的にも完全に、おかしくなっていったと思います。

こんな絶望感でいいのか、こんなことでいいんだろうかと悩みました。33歳の時です。

子供もつくらなかつたし、お金をすべて美術の学問、研究、創作に投じてきて、幸い実家からのある程度の援助もあったんですが、それを自分なりに最大限に活かしてやってきて、反発されながらも徹

それから1988年、沖縄で第1回の個展をして、デンマーク、ルオールドパリでもやればやるほど、コレクターが目してきました。

しまいにはサミーキンジョという大きな画廊からも、お前の作品は本当に凄い、今まで聞いてもなかったのにとということで、ひとつの存在として認めてくれるようになったのです。

そのほか、いろんな大きなギャラリーからもパリのアーティストとして位置づけられるようになりました。

そういうことを通りこして、僕自身もなかで生活と表現、美術が新鮮な形で一体化してきたという感じがします。

GV これは、沖縄の作家皆が切実に抱えている問題なんですよ。一生懸やればやるほど虚しいというね。それは大変なことですよ。

そういう意味で作家がどういう気持ちで創作に携わっているかということ、結局それなんです。

とても重要な事なんだと思います。

幸地 作家は創る側で、画商はコレクターとメディアとの間に立って売る側という関係性があります。

この三者は決してバラバラに存在するものではないんです。特にヨーロッパではなぜ芸術が大衆化したかということ、向こうでは、三者一体になって動くんですね。

それが沖縄ではバラバラになっている状況です。向こうではちゃんとやっているアーティストは必ず画廊を通します。

例えばビレーという60歳ぐらいのアーティストがいますけれども、彼にお客さんが直接売ってくれと電話を入れたらしいのですが、彼は即座に断ったそうです。自分はクロードルマン画廊を通してやっているんだからと言ったそうです。

お客さんは安く買いたいから、余りおもしろくないでしょうけど。でも凄く大事なことなんですよ。このことを理解させなくちゃいけない。

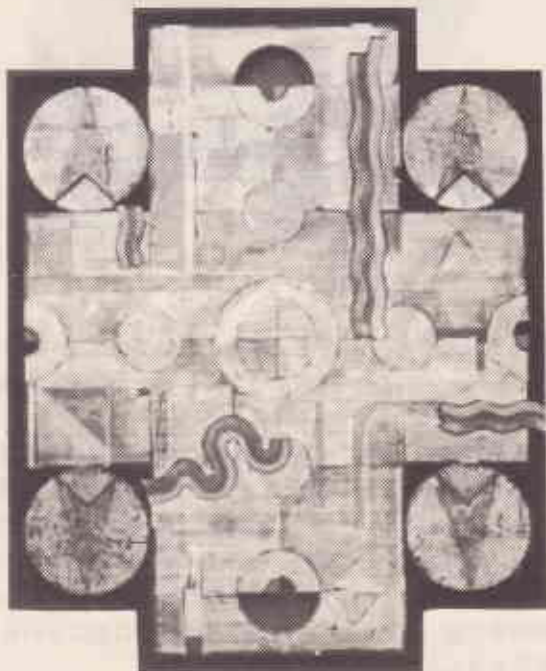
金城 そう。その三者の関係が沖縄にはまだないですよ。

表現者は偉いんだとか、大衆が馬鹿なんだとか。解ろうが解るまいが、俺が死んだ後には解るからと、そういう人もいいんだけど。それは結局、生活じゃなくて生きることにつながるわけけれども、表現しても“出口”がないから自己肥満していく。

要するに欲求不満もたまる。なんで世の中は俺のことが解らんのかと必ず言うね。結局そっちにエネルギーを使ってしまつて、表現というスクリーンに穴がいてくる。

網膜剥離みたいに結局、世の中が見えなくなるんですね。時代が見えなくなる、そんなことを繰り返してきたと思うんですね。

僕らの世代からみて思うことは、今までの世代には、失敗があったのじゃないか。それは生活化する環境を作ることに



金城 作品【SUMMER'S HIGH】106×86cm
ペンペラ+油彩+墨/ソフトキャンバス

底的に美術社交界にも入っていったし、それでも拓けないのかと思いました。

あのなかに入るだけでもたいへんなんです。向こうの人はフランス語を話さないだけでも、パツと蹴つちやいますから。フランスの個人主義の圧力は、たいへんなものですよ。

金城 それは、ここでは解らないですね。

幸地 とにかく真っ暗なトンネルをとおぼ歩いている感じで、一軒の画廊さえ見つかればいいんだと思っていました。

そうこうしているうちに今まで積み重ねてきたものが必然的に結ばれてくる感じで、美術界の人間関係に少しずつ巡り合っていたのです。

沖縄での美術活動

GV パリに居ようが沖縄に居ようが、同じようにリアルタイムで情報が入ってくる。そして、同じような認識を持つことができる。時間も太陽の恵みで24時間平等に与えられている。そういう状況にあつて、国際的な見識や認識の備わった創作ができるか。パリでは

分厚い美術状況のバックグラウンドが確にあるわけですから、作家はダイレクトにぶちあたれる。

しかし、沖縄ではそれだけのバックグラウンドができてないんで厳しいと思います。

そこらへんを、金城さんに実際創作活動をしながら作家としての壁になっている部分なんかを、話して頂きたいんです。

金城 いわゆる表現した作品の“出口”はどこにあるかということですね。“出口”が生活化してない、これが沖縄ですよ。これがパリなんかとの決定的な違いなんです。



沖縄で生まれた郷土の信販会社

沖縄信販

〒900 那覇市松山2-3-10 ☎(0988)61-1123代
アートライフは、OCクレジットで。

“専門画材の店”

CULTURE PLAZA



株式会社

みつや書店

〒902 沖縄県那覇市壺屋1-1-3 ☎(0988)63-1650代

努力してきたかということです。

表現者側はもちろん、誰も何もしてない。とにかく変なプライドがあった。戦後ずっと沖縄という土壌が、それを忘ってきたと思います。

ヨーロッパというのはその厚みが、作



幸地 学

家・画商・大衆という三者の関係を作るのに味方したんです。沖縄でそれができなかったのは何故か。余りにも芸術を過信していたんです。

ワッターは芸術家だ、ワッターは偉いという特権意識ですね。ただ人にそれを押しつけなければいいんです。自分だけで持っていればいいんですけど、早い話が押しつけ芸術ですよ。

表現のエネルギー

金城 幸地さんは現在、世界的美術界がガス状態であるという、非常に示唆に富んだ発言をしていましたが、もう少し詳しく聞かせて下さい。

幸地 ひとつは、1970年代いろんな美術運動が一挙に開花して、80年代に静まり返ったんです。

それから、これといった新しいのは出ていないんです。だいたいその傾向を追っているというふうなことが言われているわけですね。

それが世界美術のガス状態と僕はみています。そのガス状態を把握するというのを考えた場合に、美術という本来の在り方が「現実」というものを把握することですから、ますますそのガス状態を観ていかななくてはならないと考えています。その時でしか、できないというのが美術なんです。

たとえばミレーは、あのような写実の落穂拾いをあの時、あの空間だったからこそ、あの現実を把握したということなんです。

金城 結局、芸術は社会の反映だということですね。社会を見るために芸術をするということですね。

幸地 現実を把握するということを考えると、チャップリンなどは芸術家としてすごい洞察力を持っていたと思います。

常に変化している現実を物凄い力でもって深く豊かに把握しているんです。人間の文化というのが常に千変万化していることを捉えているんです。

そこに無限の可能性というのが生まれてくるじゃないか、そのなかで挑戦もあるし、そこに人間の存在価値も見出させるような気がします。

チャップリンは確かに彼の時代を真摯に把握していたんです。そういう意味で今の時代がガス状態であるとするれば、それを僕自身の作品で何とか把握しようと思っているんです。

なぜガス状態かという、そのなかの可能性がある。つまり、形はないけれども、そこに何かが充満しているというわけです。

金城 つまり美術はサイクルがひとつ終わったんです。

固体だったのが爆発して、液体だったのが蒸発した。それが動き出しているということ、形がまだないということですね。

幸地 それで、どういう形になるか分かっていたらおもしろくない。それで具体的に言って下さいと言われても分かるわけでもない。

それは、これからつくっていくわけだから。

金城 それが、まさにガス状態ということですね。

幸地 ガスという意味でもうひとつ考えているのは、空気というのはわれわれの

生活のなかで不可欠なものでしょう。空気が突然なくなった場合には深刻ですよ。そういう空気みたいに日常のベースをなしているのがガス状態だと考えていい。

そのガスを把握するのは、作家にとって、とても難しいことなんだけれども…。**金城** となると、ガス状態とは地域性をも超えるわけですよ。

世界美術がガス状態だからこそ、沖縄でできることもあるんだと思う。

GV 話を聞いていますと、時代の空気を絡めとるセンサーは、幸地さんも金城さんも同じような気がしますね。

幸地 500年も前に琉球人たちは大陸へ



金城 満

向かい、危険を冒してまでいるんなことを吸収していった。おかげで中国の明文明の恩恵を得ることができ、現代をも築くことができた。

そういうことを考えれば、何かを得るということは、100%のエネルギーを出してチャンネルを無限に拡げることだと思う。それが本当の創造者、エネルギーだと思えますね。

GV パリ、沖縄のそれぞれの拠点から興味あるお話を聞かせて頂きました。

これからもご自身の立場で、可能性を拡げて発展していくことを期待しています。今日は、どうもありがとうございました。

ダイキン冷暖房機特約販売店 那覇市給水・排水設備工事指定店



南西空調設備株式会社

〒900 那覇市泉崎2-2-3 ☎(0988)34-7831代 FAX(0988)34-5348

國場組グループ

國 和 會

会 長 國 場 幸 昇